

2017/02/04
於 東京学芸大学

教学IRシンポジウム「教員養成IRの活用と展開」

HATO-IR調査データの活用事例

ジェネラルデータからスペシフィックデータへ

大阪教育大学 教員養成開発連携センター
特任助教 城戸 楓 (Contact: kido@cc.osaka-kyoiku.ac.jp)

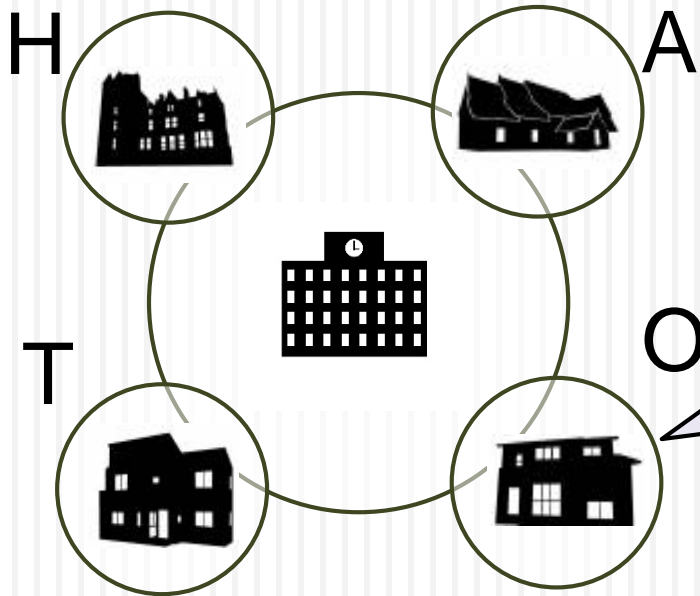
共同発表者：

半澤礼之（北海道教育大学）、京免徹雄（愛知教育大学）、
早坂めぐみ（東京学芸大学）

HATO-IRデータの活用モデル

全般的なデータ（ジェネラルデータ）

限定的なデータ（スペシフィックデータ）



HATO-IRのデータ：
大学間の比較から分かる、自大学
の特徴や強み、改善点など
etc. 教員志望の年ごとの遷移

① 学内周知

大学ごとに異なる環境

- ・受講単位と成績（GPA）
- ・カリキュラム
- ・入試形態や得点
- ・所属しているサークル
- ・ボランティア活動
- ・キャリアサポート など

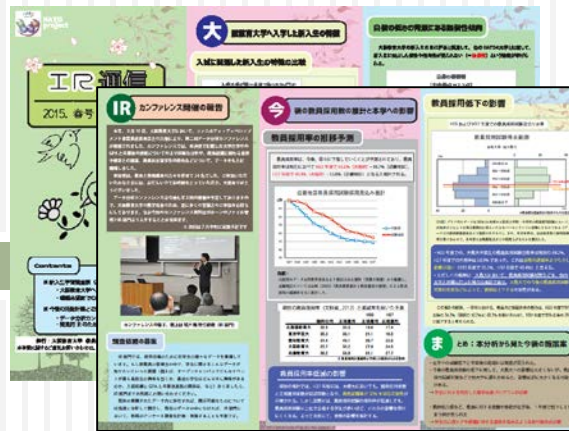
自大学にとって最も効果的な
教学改善を導くために、②デー
タのスペシフィック化、を行う

etc. 教員志望が他大学に比べて低
下する〇回生時のカリキュラムと特定
の講義の成績を調査する

① 学内周知活動

- HATOで得られた大学間での比較データをより多くの自大学の関係者（教員・職員）に周知する

大阪教育大学



□ IR通信

HATO-IRの結果を含めた、本学IRの独自データを季刊で冊子にして発行。紙媒体と学内ネットにてデータ媒体で配布（学内ネットですれまでのバックナンバーは入手可）

□ IRカンファレンス会議

学内の全教職員向けに開催される、IRデータの公表（60分）と、質疑応答（30分）の会議で、参加者との意見交換に重点が置かれる。参加は任意で、年2回開催。

HATO 3 大学



北海道教育大：HEU-IR

愛知教育大：SD・FD研修

東京学芸大：センター通信

□ 北海道教育大学：学内外関係者向けの普及冊子を刊行

学内周知活動として、学内関係者向けの「HEU-IR: SPECTRUM（年一回発行）」および、学内学生向けの「HEU-IR: SPECTRUM For student（不定期発行）」の2種類の冊子を刊行。紙媒体で配布を行っている。

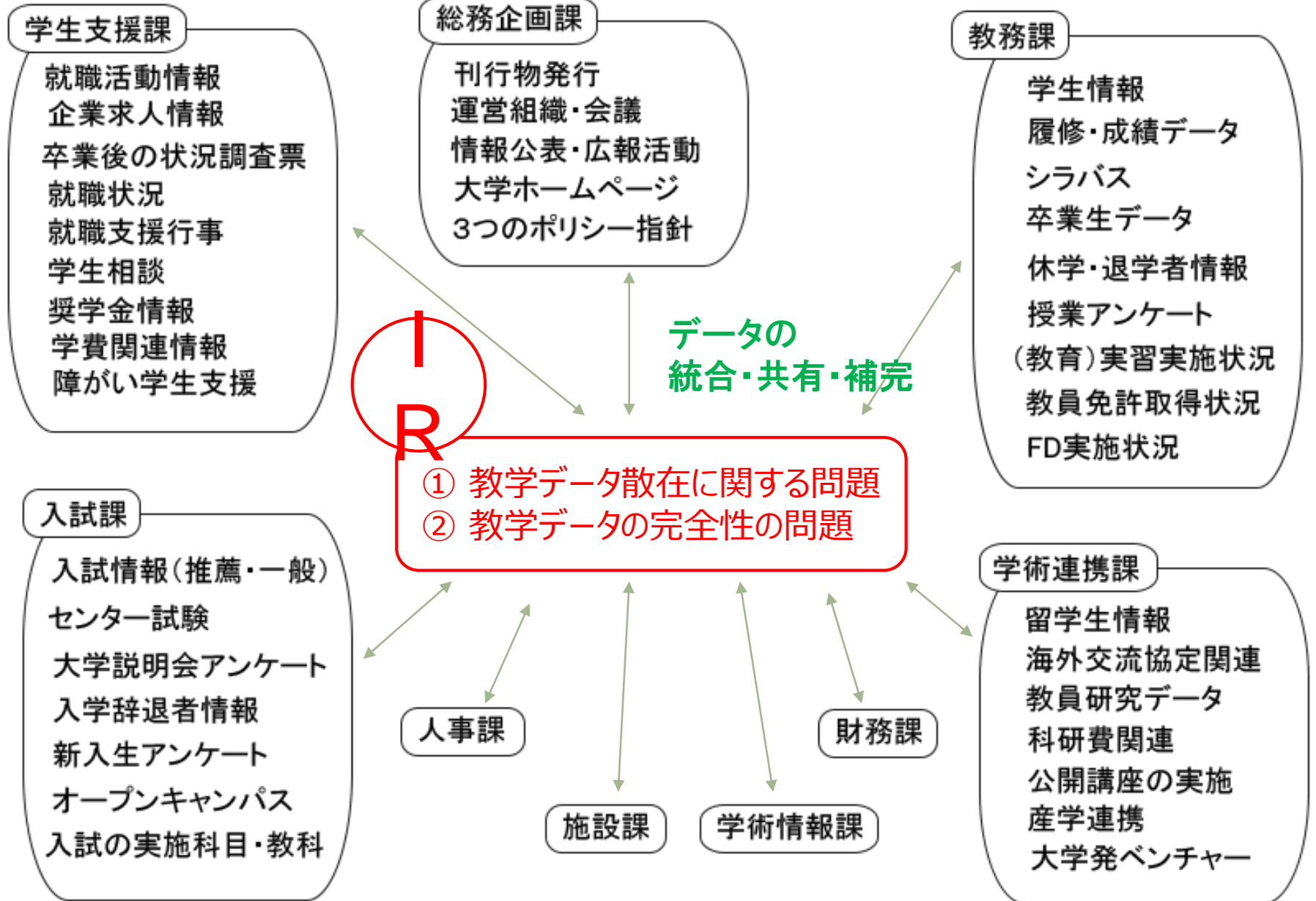
□ 愛知教育大学：分析結果を活用したFD・SDの実施

HATOデータの分析結果を活用したFD・SDを実施（2014年度「なぜ大学においてIRが重要なのか」、2016年度「データで見る愛知教育大の教育」）。

□ 東京学芸大学：広報誌（ニュースレター）を発行

「東京学芸大学教員養成開発連携センター通信」として、HATO-IR部門のみならず、研修・交流支援部門、先導的実践プログラム部門の3部門の活動結果について、主に学内向けの広報紙を作成。紙媒体とインターネット（<http://hato-project.jp/tgu/letter/index.html>）にて配布。

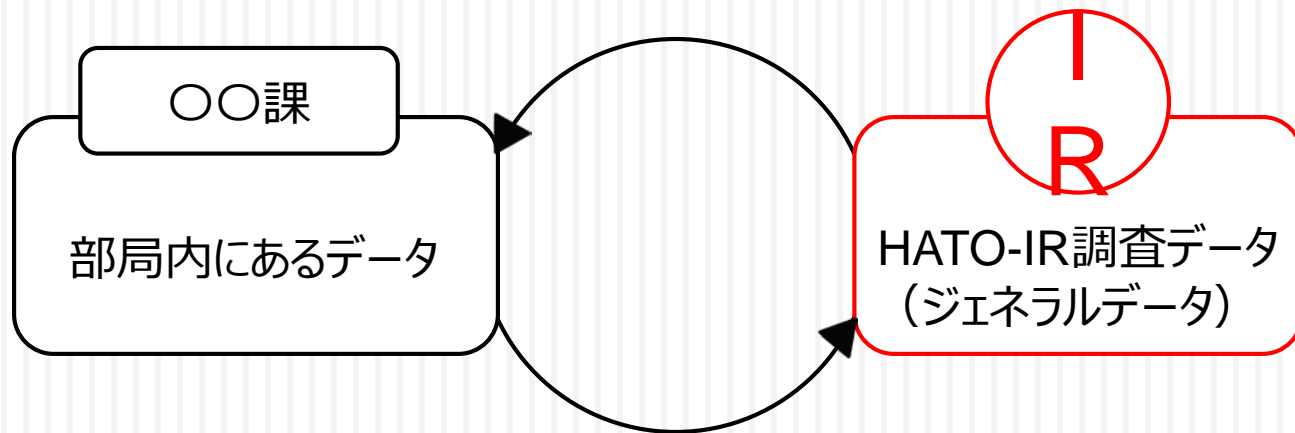
データ活用の際の問題点



② データのスペシフィック化

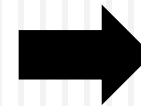
～各大学に合わせてデータの精度を高める～

- HATOで得られたジェネラルなデータを、学内の様々なデータを照らし合わせて、よりスペシフィックに自学の教学改善に役立つデータへと深めていく。



データ精度を高めるための
PDCAサイクル

これまで集積していなかった
不足データ



自大学にとって有用な
スペシフィックデータ
の発掘

各課・部署との連携例 ～大阪教育大学 キャリア支援係「教員採用試験における本学の特徴」

・大阪府：第一次試験
／第二次試験共に、他
大学よりも高い傾向

・他府県：第一次試験
は高いが、第二次試験は
他大学の合格率と違いが
ない

⇒ 地方の第二次試験対
策の弱さ

- 二次試験の合格率が高かった兵庫県では、大阪府・大阪市と異なった二次試験は行われていなかった
- 多くの自治体で、大阪府・大阪市・堺市が実施していないテストとして、**小論文と指導案**があった

各課・部署との連携例 ～HATO3大学

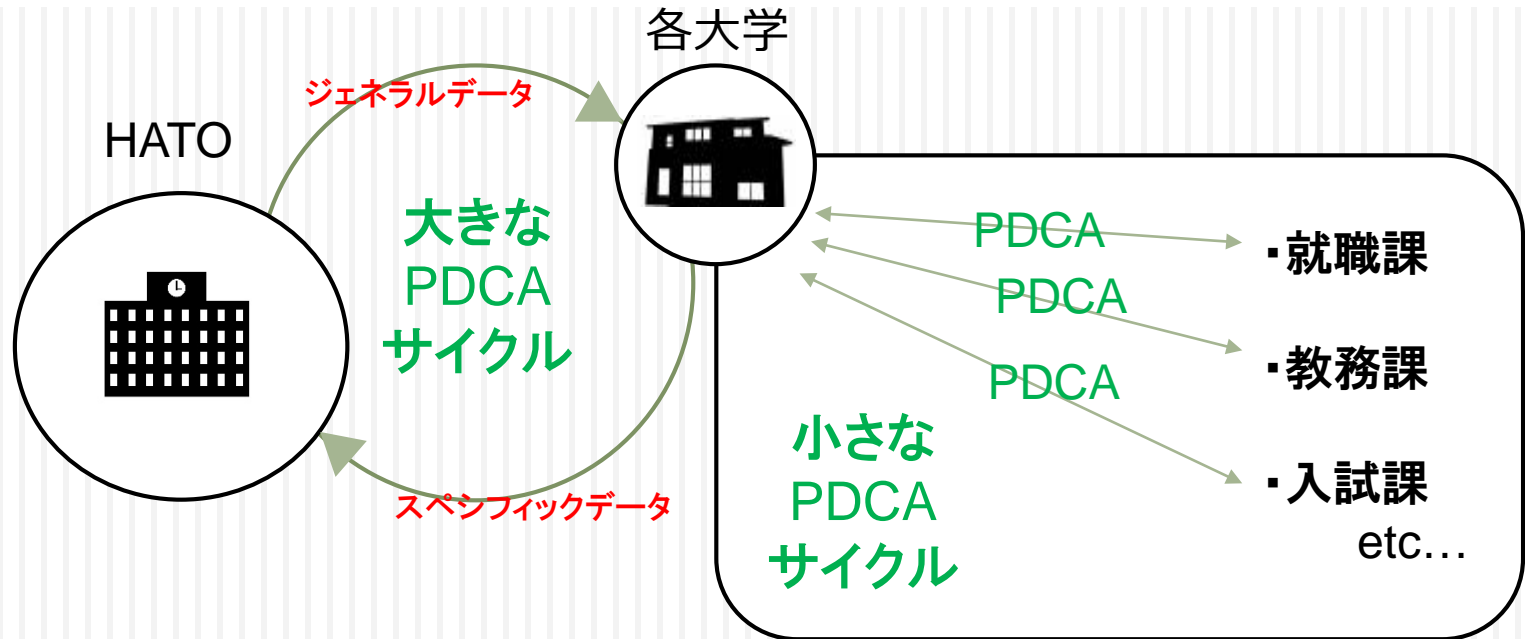


愛知教育大：IR報告会

- 北海道教育大学 – 大学役員とのランチミーティング・新規アンケート
 - ・ ランチミーティングとして、大学役員も含めた関係者に対して、IRでの活動および集積データの分析結果を定期的に報告し、今後の大学の教学改善への土台作りを行っている。
 - ・ IR部門で得られた観点から、教育実習や卒業時のアンケートに関する設問作り（北海道教育大学での独自施行のアンケート）に取り組んでいる。
- 愛知教育大学 – 関係者へのグループワーク・学内データとの接続
 - ・ 卒後の進路希望、教員志望度に関する学年や講座別の集計や経年比較を行い、キャリア支援課へ情報を提供。キャリア支援関連の教職員に対する報告会を実施（2016年度「IRデータに基づいた教育支援の課題提起－教員養成の質保証に向けて－」）
 - ・ 教務課・入試課・キャリア支援課と連携し、部署ごとに保有するGPA・入試形態・進路に関するデータを統合して、本学の学生の成績、入試、進路に関する傾向を把握。
- 東京学芸大学 – 学長副学長連絡会での報告・教採合否の分析
 - ・ 学長副学長連絡会にて、IRで得られた分析データを報告し、教学改善のための土台作りとしている。
 - ・ 学務課を中心とした若手職員と連携し、教員採用試験に関する分析を行っている。

各課・部署との連携例 ～大阪教育大学 スペシフィックデータからジェネラルデータへ

まとめ



- ① HATOで得られたジェネラルデータを学内に周知
- ② 学内データとすり合わせて、より深く、精度の高い情報へ（スペシフィックデータ化）
- ③ 学内で得られたスペシフィックデータ（の一部）をHATOへ（ジェネラルデータとの対比）
 - ①へ戻る

Thanks for your kindly attention!

発表者：

城戸 楓（大阪教育大学 教員養成開発連携センター）

Contact: kido@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

半澤 礼之（北海道教育大学 教育学部 釧路校）

Contact: hanzawa.reino@k.hokkyodai.ac.jp

京免 徹雄（愛知教育大学 学校教育講座）

Contact: kyomen@aecc.aichi-edu.ac.jp

早坂 めぐみ（東京学芸大学 教員養成開発連携センター）

Contact: hayasaka@u-gakugei.ac.jp